

右調合してにぎり酒にて可飼、又葱芩を煎しても可飼也、又内亂の時は、

- 一 桂枝中
- 一 防風大
- 一 細辛中
- 一 茯苓大
- 一 滑石大

右細末して右の飼汁にて可用也、又引内羅には右の薬を川るびをすりて、にぎり酒にてのべて飼べし、

〔安齋隨筆二〕一暑氣ニ乗ル馬ニ飼藥 戰場ニテハ未明ニ此藥ヲ飼ベシ

白朮五匁、皮ヲ去、炒ル、 藿香三匁、其儘、但砂ヲ洗落ス、 陳皮五匁、白ミヲ去、

右水三升と、鹽半合ヲ加へ、一升ニ煎ジツメ、一合ヲ可飼、但ヌカ前ニ飼也、

一寒氣ニ乗ル馬ニ飼藥 同前

麻黃十匁、其儘、キ 防風五匁、拵様 白朮二十匁 馬兜鈴二十匁、其儘 木通十匁、其儘

右二ツニ分ケ、水カゲン前ノ如シ、是ニモ鹽半合入、吞セ様同前、

〔甲陽軍鑑十六品第四十四〕馬の一薬の事、牡蠣散、馬のつぢのさがりたるは上戸、あがりたるは下戸、蠣のからを七ケ、七度焼、度々繋の汁に付ては焼付てはやき、七日十日に十九度焼、能く粉にして粟毛、鹿毛、何も上戸の馬には酒にて飼べし、馬の舌よくく洗ひてすりて飼べし、舌にぬる也、下戸の馬には水にて飼、又云、雉子の雌の足を取集めて、黒焼にして、せ、なぎの水にてのますべし、いかなる大事の頓病にもよし、

◎按ズルニ、馬薬ノ事ハ、武技部騎術篇ニ在リ、

〔屠龍工隨筆〕伯樂は馬を守る星の名なるが故に、夫あづかる職の者を號くるなり、

〔康熙字典辰集中〕樂唐韻、五角切、集韻、韻會、正韻、逆角切、並音岳、中略

〔南留別志の辨〕ばくらうといふも、伯樂の誤りなるべし、

伯樂をはくらうとよみたるはよし、誤るにあらざらうと通ふは始に云り、